

なっきよん

2012 春



奈良教育大学イメージキャラクター  
「なっきよん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S  
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名譽教授 池田 桂鳳

特集  
教育実習の日々  
～附属中学校編～

羅針盤

学び、考え、動く  
「なっきよん食育塾」

NEWS

改組後の初年次教育  
～平成24年4月新たな教員養成課程のスタート～

ラボ・レター

分析化学 堀田弘樹研究室

クローズアップ

世界遺産を切り口とした  
持続発展教育を  
展開する  
中澤静男専任講師

なっきよん's CLUB 企画

奈教のひみつ

ブカツ魂!

男女ソフトテニス部





## CONTENTS



### 2 特集 教育実習の日々 ～附属中学校編～

6 羅針盤  
学び、考え、動く「なつきょん食育塾」

9 NEWS  
改組後の初年次教育  
～平成24年4月 新たな教員養成課程のスタート～

11 ラボ・レター  
分析化学 堀田弘樹研究室

12 クローズアップ  
世界遺産を切り口とした持続発展教育を展開する 中澤静男専任講師

15 なつきょん's CLUB企画  
奈教のひみつ～学術情報教育研究センター図書館～

17 ひと・あれ・これ  
下北山村で英語教諭として教壇に立つ木村祐葵さん

18 留学生レポート  
セントラルミシガン大学(アメリカ) 窪田裕介さん

19 キラリ☆奈教生  
東市小学校を日本一の小学校に!TNPメンバーの挑戦

20 フカツ魂!  
男女ソフトテニス部

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました!  
奈教で得た宝物



### 表紙のはなし

## 教育実習

表紙の写真は、附属中学校での4週間実習に参加した教育学部3回生の渡邊憲さん。

教育実習では、準備しなければならないことや思い通りにいかないことがたくさんあり、乗り越えなければならぬ壁に直面することがあります。しかし、努力によってその壁を乗り越え、充実した教育実習を終えて大学へ戻ってきた学生は、一回りも二回りも大きく成長し、その後の過ごし方が大きく変わる学生もいます。近藤さんも、実習を通じてより良い教師になりたいという思いが強くなり、卒業までに一つでも多くのことを学びたいと積極的に授業やボランティアなどに取り組んでいます。



# 特集

## 教育実習の日々

### ～附属中学校編～

奈良教育大学では3年生時に4週間の教育実習が課せられます。4週間という時間の中で、学生たちは一体どのような経験を、何を学んでくるのでしょうか。

今回の特集では、奈良教育大学附属中学校での教育実習を取り上げます。



### 実習の流れ

#### step1

3年生の4月から行われる「事前指導」(実習に関する基礎的な事項を学ぶ授業)や附属中学校に足を運んでの「事前観察」で、教壇に立つ心構え、生徒やクラスの様子、授業内容や方法などをしっかりとつかむ。また夏休み中は、担当予定の単元について教材研究を行い、学習指導案を作成しておく。

#### step2

9月初旬より教育実習がスタート。生徒たちとの対面式、担当クラスでの挨拶から始まり、授業観察、担当授業と忙しい毎日。学級読書会や大学教員の研究室訪問引率などの行事も。



生徒が理解しやすいように  
試行錯誤が続く

#### step3

いよいよ教育実習も後半。臨海学習の発表会や学級PTA(保護者と学級担任が意見や情報を交換・共有する機会)などにも参加。生徒のみならず、保護者の方々への対応も実地で学ぶ。また、指導教員以外の先生方や大学教員を招いての研究授業や文化祭などもあり、実習もクライマックスへ。

#### step4

9月末～10月初旬に実習終了。大学に戻ってから、「事後指導」でそれぞれの教育実習体験を発表したり、印象に残っている授業を文章にしたりすることを通して、4週間の体験を更に深めていく。



校種の異なる実習生が  
一堂に会して情報共有

## 奈良教育大学教育実習の強み

#### Point1

附属中学校では、実習生一人に対し、学級指導担当教員と教科指導担当教員の二人をあてています。経験豊富な教員が学級経営と授業の両面をサポートすることで、中学校教員に必要な力を総合的に育てていくことができます。

#### Point2

大学と一緒に学んでいるメンバーの多くが附属中学校に実習に行きます。担当授業のための教材研究や模擬授業、担当クラスのための話し合いなども、普段から親しい仲間たちと刺激し合い、支え合いながら取り組むことができます。

### 実習生の一日の流れ (ある日のスケジュール)

7:50	登校 (学生日誌の整理、授業の準備)
8:20	教育実習生全員で朝の会 (今日の予定を確認)
8:35	担当クラスで朝の会 (出欠確認、連絡事項の伝達)
8:50	授業開始
12:40	昼食・昼休み (担当クラスで昼食指導)
13:20	授業開始
15:15	清掃指導
15:35	担当クラスで終わりの会 (連絡事項の伝達、日直のあいさつ)
15:45	「文化の集い」に向けた準備 (生徒たちの活動をサポート)
17:15	下校指導
17:30	学級日誌、日直日誌の確認、 実習日誌の作成
18:00	担当授業の反省会と翌日の授業の 打合せ (実習生同士で集まり、良かった点 や反省点についての話し合い、今日 の成果を踏まえ、翌日の授業の 練り直し、学習指導案を教科指導 教員に見てもらい、指導を受ける)
20:00	帰宅



# 失敗と挑戦

## — 実習を終えて —

実習を終えた清水阿弓香さんに話を聞きました。

### 清水さんは何年生の担当で、教科は何を担当したのですか？

私は2年生のクラスを受け持ち、国語で「走れメロス」を教えました。先輩方から実習中は時間の余裕が無いと聞いていたので、夏休み中に教材研究に取り組み、学習指導案を書きためておきました。実習が始まるとすぐに教科指導の先生に指導案を見ていただき修正し、いざ授業に臨みました。でも実際にやってみると困難の連続でした。

### 何がたいへんでしたか？

予想していなかった反応や意見が生徒から返ってくることです。こちらの指示や発問の意図が伝わらない場面が多くありました。私の伝え方の悪さや準備不足で生徒を混乱させてしまったのだと思います。

### そんな時、どうしましたか？

どうしようもできなかったんです。自分の中で瞬時に整理することができず、黙り込んでしまうこともしばしばありました。準備していないことが起きると恐くなってしまいうんです。今考えれば、そんなに恐れることはなく、自分のベストを尽くせばよかったのですが、その時は何をすることもびくびくしていました。びくびくするから余計に身動きがとれなくなり、どんどん自信を失っていきました。自分の授業を終えると毎回落ち込みました。ひどいときには、授業の失敗が原因で昼食指導に行けなかったときもあります。そんな状態のまま、研究授業の日を迎えてしまいました。授業後の批評会には附属中学校の先生方、大学の先生方も参加してくださったのですが、厳しいご意見をいただき、本当に落ち込みました。

### たいへんでしたね。

でも、それがいいきっかけになりました。このまま終わりたいかと思っただけです。受け持つことのできる授業が2時間ほど残っていたのですが、それは自分

教育学部学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 3年生  
大阪府立春日丘高等学校出身  
しみず あゆか  
清水 阿弓香さん



との戦いでした。これまでやってきた授業を反省し、全く違うものに改めるといのはとても怖いことでしたが、勇気を振り絞って体当たりで挑戦しました。そこでようやく気づいたのですが、実習ではやってみようと思ったことはすぐやってみるべきなのです。生徒からは予想以上の反応がこぼれてきました。普段発表をまったくしない生徒が手を挙げました。私は授業をしながら生徒たちとコミュニケーションをとることができました。恐ろしいものと回避していた生徒の予想外の意見が、とても面白いものだと思えました。学級全体で同じことについて考え、一緒に学んでいくことが楽しいと感じられました。最後にとても充実した時間を過ごすことができました。自分が楽しいと感じるときには生徒たちもいきいきします。授業には、教えることを楽しむ

気持ちと、みんなで考えようとする態度がとても重要になってくると気づきました。この残り2時間で経験したことは教育実習で得た大きな財産です。

**怖じ気づかずに挑戦したことが実を結んだんですね。貴重な経験です。**

この経験は、周りの人の支えがないとできなかったと思います。教科指導の先生も学級指導の先生も私のことを応援してくださいました。時には厳しい言葉もいただきましたが、それも私のことを思っておっしゃっていることがよくわかったのでとても心強かったです。批評会で忌憚ない意見をくれる実習仲間たちは、それを改善するためのアドバイスもたくさんくれました。声が小さいという指摘を受けた後、同じ注意をうけた仲間と発声練習をしました。授業前に「落ち着いて」や「大丈夫、大丈夫」と声をかけ合い、また授業がうまくいかなくても少しでも改善されたところがあれば一言かけてくれました。大学で一緒に学んでいるメンバーが一緒なので、苦しい時に支え合うことができるんですね。これは私にとって大きなメリットだったと思います。共に学び、そして支え合う。この大切さを実感しました。実習仲間同士で



緊張した研究授業の様子





1 多くの実習生や大学教員などが研究授業を参観しました  
2 研究授業後の批評会。厳しい指摘を受けながら、それを力に変えていきます  
3 研究授業前に何度も練り直した、学習指導案

もそうでしたし、もしかすると生徒との関係もそうなのかな、と今では思います。何より生徒たちが私の心の支えでしたから。生徒のことを知るたびに、頑張ろうと思えました。私の中では一生大切な生徒たちです。

### 生徒への意識も実習の前後で変わりましたか。

大きく変わりましたね。頭では分かっていたことなのですが、実際に接してみ、生徒一人ひとりがこうしたいという自分なりの思いや意見、さまざまな感情を抱いているんだとあらためて実感しました。特に、文化祭である「文化のつどい」の準備をしている時に、そのことを強く感じました。私の担当クラスでは、当初、小さなグループごとに動いてしまい、全体のコミュニケーションがとれていない状態でした。少しでもまとまるようにと働きかけをしたところ、生徒たちもこれではまずいと思っていたようで、徐々に協力し合うようになったのですが、それと同時にさまざまな衝突が起きました。自分の中にしまい込んでいた意見を互いにぶつけ合う中で、互いの本音が出始め

たのです。でも何度も話し合いを重ねることで、ぶつかり合い、時に妥協し合いながら意見を一つにしていきました。生徒たちにとって一番大切な時間だったと思います。私にとっても生徒指導を考えるととても良い機会になりました。学級のあり方や生徒たちの変化を目の当たりにして、教員という仕事の醍醐味を少しだけ味わえたような気がします。

### では最後に、これからの意気込みを聞かせてください。

今回の実習では、指導教員をはじめとして、実習仲間や生徒たちにたくさん支えてもらいました。今度は私が誰かを支える番です。もっともっと頑張る、生徒たちの支えになれるような、そんな先生になりたいです。

めまぐるしく過ぎていった4週間は、中学校教員としての学びはもちろんのこと、さまざまな面において成長をもたらしてくれた日々でもあったようです。未来に向かってぐんぐんと伸びていく学生たちのこれらが楽しみです。

## 指導教員 EYES (教科指導)



奈良教育大学附属中学校  
うえにし こういち  
植西 浩一先生

### 教育実習にあたり、実習生に期待することは何ですか。

教科の授業、学級経営、部活動、何事にも全力でぶつかり、できるかぎり多くのことを吸収しようとしてください。真摯な態度、謙虚な姿勢で、学べるだけ学んでください。

若さの持つまじめさ、ひたむきさは、何にも変えられない宝物です。それを最大限に生かして1か月の実習生活に取り組みすることを期待しています。

### 今年度の実習・実習生を振り返っていかがでしょうか。

たいへんまじめにかつ熱心に実習に取り組んでいて、よかったと思います。何度も指導案を練り直して授業に取り組んだことは、貴重な財産になると思います。

ただ、自分はこれをやりたい。こんな授業に取り組んでみたいというこだわりは、以前の実習生たちに比べると弱くなっているのではないかと感じています。次の4回生実習では、こんな授業をやってみたいという思いを持って臨むと、さらに成果が上がるように思います。

### 教員を目指す高校生・本学生へのメッセージをお願いします。

教員は、やりがいのある魅力的な仕事です。充実した授業の場を子どもたちと共有できたとき、子どもたちが心を開いてくれたとき、子どもたちの成長が感じられたときなどは、本当にうれしく、それまでの疲れも吹き飛びます。同時にその人の学問の深浅や人間そのものが問われる仕事でもあります。高校や大学で学べるだけ学ぶとともに、様々な経験を積んで自分を磨き、教員への道を進んでください。

教室の子どもたちは、若くてやる気のある元気にあふれた先生を、待っています。

※1 教科指導の指導教員は、授業の設計図ともいえる学習指導案について、さまざまなアドバイスをを行います。実習生たちはアドバイスを参考に何度も修正を重ねた上で、指導案に基づいて授業を行います。授業後には指導教員や実習生仲間反省会を行い、良かった点や悪かった点について話し合い、次の授業へとつなげていきます。

※2 学級指導の指導教員は、担当クラスの様子や生徒たちの個性、日常の行動や行事に向けた準備など学級に関わるさまざまな局面でアドバイスをします。学級運営には、生徒一人ひとりを個として見つめ、活かしていくことを念頭においたカウンセリングマインドが必要です。昼食時や清掃時、行事を通して行われる生徒との交流の中はもちろんのこと、時にはルールを破った生徒の指導なども行わなければなりません。実習生たちは、指導教員のアドバイスを参考にしながら、また仲間同士で相談し補い合いながら奮闘します。

※3 本学では3回生で4週間、4回生で2週間の実習を経験します。

# 実習を終えた 学生たちの感想文



教育学部学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 3回生  
私立関西創価高等学校出身  
うえだ こうた  
上田 幸太さん

私はアルバイトで個別指導塾の講師をしており、授業に対して不安はあまりなかったのですが、この実習で個別と集団で教える場合の違いに気付きました。集団ではなかなか個人が見えません。だからこそより意識して個人を見なければならぬのです。

また、何より感じたのは生徒との一体感でした。今まで、塾という立場上、生徒と何か一緒にするというより、一方的に教えるという形でしたが、実習では文化のつどいを通して生徒と一緒に一つのものを築き上げていくという経験しました。指導者という立場でありつつ、共に協力し合う仲間でもあったのです。このような活動を通して生徒との絆が深まっていくのだろうと感じました。

授業に対する考え、生徒に対する考え、学校行事に対する考え、自分が生徒だったときや、塾で教えているだけでは感じることのできなかつたことを多く体験させていただいた教育実習でした。



教育学部学校教育教員養成課程  
身体・表現コース 3回生  
奈良県立橿原高等学校出身  
にしたに なおき  
西谷 直樹さん

実習がとても懐かしく感じ、また「絶対教師になってやろ」という強い思いを抱いています。実習は忙しかったのですが、それ以上に楽しく有意義で、これから先もずっと生徒たちとの時間を過ごしたいと思うこともありました。そう考えると、実習というのは忙しい日々、楽しい思い出、時間をくれたものであると同時に、未来に向けての原動力を与えてくれたかけがえのないものでした。

また、授業とは教師が知識・技術を与えていく場ではなく、生徒が知識・技術を獲得していく場であり、授業は生徒のためにあるということを実感しました。授業を考える際や授業中に、生徒の気持ちを考えているかということが大事だということも重要なことに気づくことができたのは大きな収穫でした。

短い期間であったものの、たくさんのことを学び、強い思いを与えてもらい、とても貴重な体験ができました。この思いを忘れずにこれからの日々を過ごしていきます。



教育学部学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 3回生  
徳島県立城北高等学校出身  
かさい だいすけ  
笠井 大輔さん

私は、教える側として「具体性」と「専門性」が大きく不足していました。確かに教育において目標を持つことは大切ですが、達成までの具体的な手順が欠けていては、どんな目標も意味を持ちません。それまで大学生として、教育について机上の論ばかりたくましくしていた身としては、非常に現実的な教訓でした。また専門性の不足から生じる授業の至らなさも大きな課題でした。教員は生徒の意欲を引き出し、向学心を抱かせることから始めなければなりません。試験問題を解けて指導できる程度の専門性ではダメで、教壇に立つには、教科の面白さを理解し、また理解させられるだけの専門性が必要でした。

教育実習は私にとって、自分に不足するものを気づかされる非常に価値のある機会でした。結局、生徒にとって私との四週間が意義のあるものだったかは自信が持てませんが、今私に出来るのは、いつか出会う次の生徒のために、今回の経験を糧とすることです。もっともっと専門性を高めるために、大学院に進学したいと考えています。現場に出る時期は遅れてしまっていますが、半端な知識しか持たないまま教職に就くことだけは避けようと、強く心に決めています。



教育学部学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 3回生  
大阪府立富田高等学校出身  
わたなべ ただし  
渡邊 憲さん

教育実習は『授業を一人でできるようにするためのもの』と考えていた私でしたが、教育実習全体が大きな学びの場であることに気付くことができました。もちろんすべてを学び、自分の力にすることはできませんでしたが、これから学ばなければならないことや学びを深めなければならないものが課題として見え、有意義な1カ月を過ごすことができました。

実習での一番の変化は、実際に生徒の前に立って授業をしたり、生徒と関わる中で生徒の成長を目の当たりにしたりして、教職を目指す気持ちが一層強くなったことです。授業は生徒が中心となり、生徒から答えを引き出すものということを知ることができ、生徒たちがいきいきと学べる授業を作りたいと教職への思いが強まりました。また、今までは大学の講義が教職のどこにつながっているのかイメージしづらかったのですが、教育実習を終えてから講義を受ける姿勢と講義から学び取るものが変わりました。

さらに、教育実習によって価値観と行動が変革され、これからより多くのことを経験し、学びたいと思うようになりました。卒業するまでに一つでも多くのことを学び、より良い教師になりたいという思いから、講義に一層積極的に参加し、他にも大阪府主催の教師塾やボランティアにも積極的に参加するようになりました。

## 指導教員 EYES (学級指導)



奈良教育大学附属中学校  
(1年1組担任)  
かわはた けいこ  
川畑 恵子先生

一人ひとりを大切にしてくれ、文化のつどいの合唱指導もしっかりと行ってくださいました。感謝しています。生徒は一人ひとりかけがえのない存在です。そのことを念頭において、個を大切に教育を行ってほしいと強く思います。



子どもたちのサプライズもあり、忘れられない一日となった実習最終日



文化のつどいで歌った歌を最後に合唱





# 学び、考え、動く 「なっきょん食育塾」

～次世代を担う教育者の  
「考動」力を育てる～



家庭科教育講座  
たてまつ まいこ  
准教授 立松 麻衣子

平成 23 年度から学長裁量経費の支援を受けて「学生の知識・技能を活用する力の育成につなげる食・健康教育プロジェクトー学生主導型の全学的食育を目指してー」（なっきょん食育塾）という教育活動をスタートさせました。

「なっきょん食育塾」では、学生の発想・アイデアをもとに、学生が食や健康に関するさまざまな活動を企画・運営していきます。

「なっきょん食育塾」の活動は、あくまでも学生が主役です。私たち教員は、学生が知識と経験を積み重ねていくことをサポートしながら、次世代を担う教育者が身に付けておくべき、

自ら考え判断し、行動する力、つまり「考動」力を養うことを目指しています。

本学は、高い知性と豊かな教養を備えた人材、とりわけ人間形成に関する専門的力量を備えた有能な教育者を育てることを使命としています。また、昨今では、学生の人間形成を基軸とする社会人としての動機付けを重視しています。この動機づけの手段として「なっきょん食育塾」の活動が効果的であり、食や健康に関する「考動」を通して、社会人に求められるコミュニケーション力や課題発見・解決力、協調性、創造力などの基礎能力を身に付けていきます。



## 「なっきょん食育塾」の活動

「なっきょん食育塾」1年目（平成23年度）の塾生は、家庭科教育講座29名の学生です。

「なっきょん食育塾」では、さまざまな専門の教員が指導にあたりました（中谷昭教授（塾長・スポーツ栄養）、河上哲教授（生協理事）、川上文雄教授（市民教育）、鳥居春己教授（環境教育）、箕作和彦准教授（栽培）と、家庭科教育講座の全教員（鈴木洋子教授（家庭科教育）、大家千恵子教授（食物学）、杉山薫准教授（栄養学）、中川愛准教授（保育学）、筆者（家庭経営学））の10名です）。

1年目の活動は、「学年をまたぐグループで活動を行う」「大学内外のさまざまな人とのやり取りが必要な活動を行う」「ワクワクする活動を行う」、の3点を条件にして活動内容を決めました。活動内容は右の①～⑥です。活動概要と活動時期を表1に示します。

「なっきょん食育塾」の活動は、授業外の活動ですので、早朝や深夜、授業の空き時間や休休みを活用して進めていきました。活動の報告・連絡・相談はメールやランチョンミーティングで行いました。

活動を進めるなかで、保護者の方からの協力をいただく場面がありました。大学祭での「ビストロ家庭科」のカレーライスの材料として、兵庫県三田市からメークイン、淡路島から玉葱、宮崎市から米を提供していただきました。「学生の役に立てるなら喜んで」「おいしいカレーを作ってください」といったメッセージも頂きました。このことは、大学教育に保護者の方の理解と協力が得られたことを実感できる非常にうれしい出来事でした。

「なっきょん食育塾」の名前が広がるにつれて、大学生協や附属校園、事務局の方々、また教員からも、応援や協力をいただけるようになっていきました。この頃から、学生の顔には自信があふれ、素晴らしいチームワークを発揮してくれるようになりました。

- 1回生～4回生 (全29名)
  - ①実習園での人参栽培（種まきは15m×4畝。半分枯らせてしまい収穫は2畝分）。
  - ②大学祭で「ビストロ家庭科」を出店し、栽培した人参を使ったカレーを販売（350食@250円）。
- 1回生 (8名)
  - ③奈良教育大学生の食生活調査を実施。
- 1・2・3回生 (計20名、2グループ編成)
  - ④生協とコラボして奈良教育大学生の食生活サポートを行うことを目的に、「わたしのランチコンテスト」を3回開催し、生協小鉢6種の栄養カードを作成・掲示。
  - ⑤大学前にある洋菓子店「にこここ庵」とのコラボスイーツを開発。子どもに安心して食べさせることができるをコンセプトにして、材料にこだわった「にんじんクッキー」を開発。大学祭販売計500袋@50円（6枚入り）、生協販売4回計500袋@100円（8枚入り）。
- 4回生 (9名)
  - ⑥なっきょん食育塾だより（Vol.1～Vol.4）を発行。



その他、得意分野にあわせた役割分担

⑦大学祭では、工芸が好きな学生が貼り絵の看板を作ったり、被服製作が好きな学生が全員分のエプロンを作ったりしました。またイラストを描くのが好きな学生が活動ロゴを考案しました。



表1

	2011.5月	6月	7月	8月	9月
	なっきょん食育塾構想が始まる 学長裁量経費申請	学長裁量経費採択 学生説明会第1回			・活動ロゴ2種申請 「食育なっきょんJr.」 「にこここ庵∞ なっきょんコラボロゴ」
1-4回生	①人参栽培	4畝の土づくり	種まき・交替制管理	管理不足2畝断念	交替制管理
	②大学祭	リーダー決定	学祭メニュー決定		秘伝レシピを教わる
1回生	③食生活調査				
1-3回生	④大学生協とのコラボ (AYO58)	リーダー決定	活動コンセプト決定	方策検討	方策検討・決定
	⑤にこここ庵とのコラボ	リーダー決定	活動コンセプト決定	試作検討	
4回生	⑥なっきょん食育塾だより	リーダー決定			

# 「なっきょん食育塾」の教育効果

塾生が、この1年間の活動について感想を寄せてくれました。

## ①人参栽培について

家庭科全員を代表して 1回生・<sup>まつだ あかね</sup>松田 西さん  
(兵庫県立長田高等学校出身)

はじめての人参作りは、土作りや水やり、雑草抜きと想像以上に大変なものでした。でも雑草で埋もれた畑の中から生き残った人参を見つけるときや、自家製人参のカレーやクッキーを食べた人が喜んでくれたときはうれしかったです。頑張ってたかったと思えました。農家の大変さも知ることができ、勉強になりました。

## ②大学祭について

学祭リーダー 2回生・<sup>こんどう みゆ</sup>近藤美優さん  
(私立開明高等学校出身)

家庭科が大学祭に出店するのは初めてでしたが、自家製の人参など素材にこだわり、朝早くから作ったカレーライスは好評で、地域の方々にも喜んでいただけたと思います。地方の特産を使用することや、手間をかけて調理をすることで、より美味しく食べられることも学びましたが、何よりも、「食」を通じて多くの方々と触れ合えたことが、良い経験になりました。

## ④大学生協とのコラボについて

AYO58リーダー 2回生・<sup>わたなべ はるか</sup>渡邊遥華さん  
(私立天理高等学校出身)

より親んでもらえるように、栄養小鉢をもじって「AYO58」とネーミングして活動しました。なっきょん食堂を利用する学生の食事をよりよいものにしようと、「わたしのランチコンテスト」を開催しましたが、応募してくださったメニューを評価するのは私たちにとってとても難しく、何度も話し合いました。初めての取り組みでとても大変でしたが、栄養素に対する知識や献立を立てたり評価したりする経験を得ることができ、とても良い学びの機会になりました。

## ⑤ここにこ庵とのコラボについて

スイーツリーダー 3回生・<sup>おちあい えみ</sup>落合絵未さん  
(奈良県立欽陵高等学校出身)

木村シェフとのやり取りや多くの人をまとめることは大変でしたが、3回生のみなが支えてくれたのでリーダーを務めることができました。早朝や授業の合間にクッキーを作ったり、クッキー作りの時に人が集まらなかったり、何かと苦労が多かったですが、生協まで足を運んでくださる附属幼稚園の園児や保護者の方、先生方、学生のみなさんの姿、「おいしいね」といううれしい声、生協の方の温かい応援のおかげで頑張ることができました。

## ⑥なっきょん食育塾だよりについて

新聞リーダー 4回生・<sup>ながさか みえこ</sup>長坂美恵子さん  
(愛知県立豊橋高等学校出身)

なっきょん食育塾だよりは「家庭科専修の取り組みを知ってもらうこと」と「食に関心をもってもらうこと」に留意し作成しました。「食は大切」だと言われますが、飽食の現代ではなかなか実感することが難しいと思います。まずは、なっきょん食育塾だよりを通して「食って面白いな」と感じていただければ、これからも取り組んでいきます。私は、なっきょん食育塾で、一人ひとりが役割を持って実行することで組織は機能するということを実感しました。自分が家庭科であるという所属感、誇りを持つことができたのは、なっきょん食育塾が初めてでした。

※なっきょん食育塾だよりは大学ホームページからご覧いただけます。

[http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/shokuiku\\_juku.html](http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/shokuiku_juku.html)



「なっきょん食育塾」の活動で、学生に何らかの種がまかれたことを願います。学生たちが、それをどのように発芽させ、どのような花を咲かせるのか、次世代に何を伝えられるのか、それが教育効果だと思っています。効果が出るまでに個人差があり、少し時間が掛かりそうですが、学生時代に行うこの教育は、とても大切な教育だと確信しています。

大学の役割は、質の高い教育研究を行い、その成果を社会に還元することです。「なっきょん食育塾」の塾生が社会に出たときに、社会人としてどのようなパフォーマンスができるのか、それを楽しみにしています。

## 「なっきょん食育塾」のこれから



「なっきょん食育塾」2年目にあたる平成24年度は、奈良県の伝統的な生活文化を学び、そこから考えて動く活動も行います。

「食」は「人に良い」と書きます。今後は、家庭科教育講座以外の学生も塾生になって、食や健康に関して幅広い視点から、学生が活動をプランニングしたり、コーディネートしたり、学生同士がディスカッションしたりする塾へと成長してくれることを期待しています。

10月	11月	12月	2012.1月	2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動ロゴ使用許可</li> <li>研究企画室開設</li> <li>保護者の方から学祭カレー用の米・玉ねぎ・メークインを提供していただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科の保護者の方全員に活動報告を送る。</li> <li>カレー食材を提供いただいた保護者の方に学生からお礼状を送る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学ホームページになっきょん食育塾のページが開設する。</li> <li>学祭の様子が、奈良のタウン情報誌「ぱーぷる」に掲載される。</li> </ul>		
収穫				
エプロン制作・カレー試作	ビストロ家庭科出店			
	食生活調査の検討	食生活調査の実施		
わたしのランチコンテスト①	わたしのランチコンテスト②	生協小鉢の栄養カード作成	わたしのランチコンテスト③	
試作検討・完成	にんじんクッキー学祭販売	にんじんクッキー生協販売①②	にんじんクッキー生協販売③	にんじんクッキー生協販売④
第1号発行	第2号発行	第3号発行	第4号発行	

# 改組後の初年次教育

～平成24年4月新たな教員養成課程のスタート～

## 資質能力の高い教員の養成



学長補佐（教育課程担当）<sup>こん まさひで</sup> 今 正秀  
准教授 社会科教育講座。  
専門は日本古代・中世史。

平成24年4月から奈良教育大学は、これまでの、学校教育教員養成課程と総合教育課程を再編統合して、3つの専攻を持つ学校教育教員養成課程に移行、教員養成を中心とした大学として生まれ変わります。将来、教員になる夢を持って本学の門をくぐってこられた学生の皆さんを、より幅広い知識と力量を備えた個性豊かな教員に育てるため、新たなカリキュラム作りに取り組んできました。

今回は、平成24年度から新たにスタートする新入生を対象とした初年次教育について取り上げ、教育課程担当の学長補佐として、教育課程の開発に取り組んでいる、今 正秀准教授に新カリキュラムについてご紹介いただきました。

### ◆今回の学部改組では

本学は、これまででも社会の要請に応え、求められる教員・教育者の育成を果たすため、学部改組を行ってきました。今回の改組では学部定員のすべてを教員養成課程とし、教育発達、教科教育、伝統文化教育の3つの専攻を設けます。それぞれで独自の学びを深めながら、教員の中核をなす教科指導力、児童・生徒の成長を促すために欠かせない教育臨床的力、そして直面する様々な課題への対応力を高める教員養成をめざします。それを可能にするために、教員養成カリキュラムの全体についても大幅な見直しを行いました。

### ◆4年間の学びの基礎を培う 「初年次教育」

本学へ入学する学生は、教員への強い志望を持っています。その意味では、卒業後の進路、つまり自身の将来設計が明確であり、従って何を学ぶべきかもはっきりしており、学ぶ意欲も高いと言えます。

そうした特徴を活かしながら、入学後の学びを円滑に進めるためには、高校までに身につけた力を大学での学びにふさわしい、あるいは必要とされるものに高めていくことが求められます。そのために重要なのが「初年次教育」です。

本学の「初年次教育」は、広く大学での学び一般への対応と、教員をめざす第一歩を刻むという二つの側面を有しています。



## 初年次教育カリキュラムの紹介

「初年次教育」は、具体的には「大学での学び入門」「教職入門」「現代教師論」「専修基礎ゼミ」の4つの授業で構成されています。

### 大学での学び入門

1年生前期の前半(4月～5月)に実施される「大学での学び入門」は、各専攻の専修(教育発達専攻では教育学・心理学・幼年教育・特別支援教育の各専修、教科教育専攻では各教科専修、伝統文化教育専攻では書道教育と文化遺産教育専修)ごとに行われます。各専修の専門性を基礎に置いて、大学での学びに必要な基本的力(アカデミック・スキル)を身につけることをめざします。

例えば、大学ではレポート課題が課せられることが多くなります。誰かの文章をつなぎ合わせただけではない、かつ、感想文とも違う、いわばレポートとしての要件を備えたものをまとめることができる力は欠かせません。レポートをまとめるためには、与えられた課題について調べるにはどうすればよいのか、集めた資料・情報やデータをどう分析するのか、分析して得られたものをどう総合するのか、そうした考察の過程と結論を他者に理解してもらうためにはどのようにまとめればよいのか、といったことが総合的に、統一的に達成されなければなりません。また、視覚や聴覚に訴えて理解を高めてもらうための力も必要とされます。もちろん、これらは一朝一夕に身につくものではありませんが、まず基本中の基本を理解し、活用できるようにしようというのが「大学での学び入門」のねらいです。

### 教職入門

1年生前期の後半(6月～7月)は学年を4クラスに分けての「教職入門」です。この授業は、教員をめざして本学に入学してきた学生一人ひとりに、教育専門職としての教員のイメージを形作ってもらうのが目的です。今までは、児童・生徒として教員を見ていたわけですが、そこで描いた教員のイメージと、教員の実像とは、もちろん重なるところもありますが、見えていなかった部分もたくさんあるはず。この見えていなかった部分に気づくことこそ、専門職業人としての教員になっていくために大切なのです。

そこで、この授業では、優れた教育実践に触れ、それを生み出した教員をゲストティーチャーに迎えて直接学んだり、母校を訪問して、教員としての先輩にあたる恩師にインタビューしたりしながら、教師の仕事の諸相に触れ、教育という営みの本質に近づいていくことをめざします。

### 現代教師論

1年生後期に実施する「現代教師論」は、前期後半の「教職入門」の発展編といえます。本学の附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学級の先生方からそれぞれの教育の実際について学び、また附属学校園を見学します。そうした活動を通じて、自分が希望する学校種の教員になるための学びの道筋を確かなものにしていきます。

### 専修基礎ゼミ

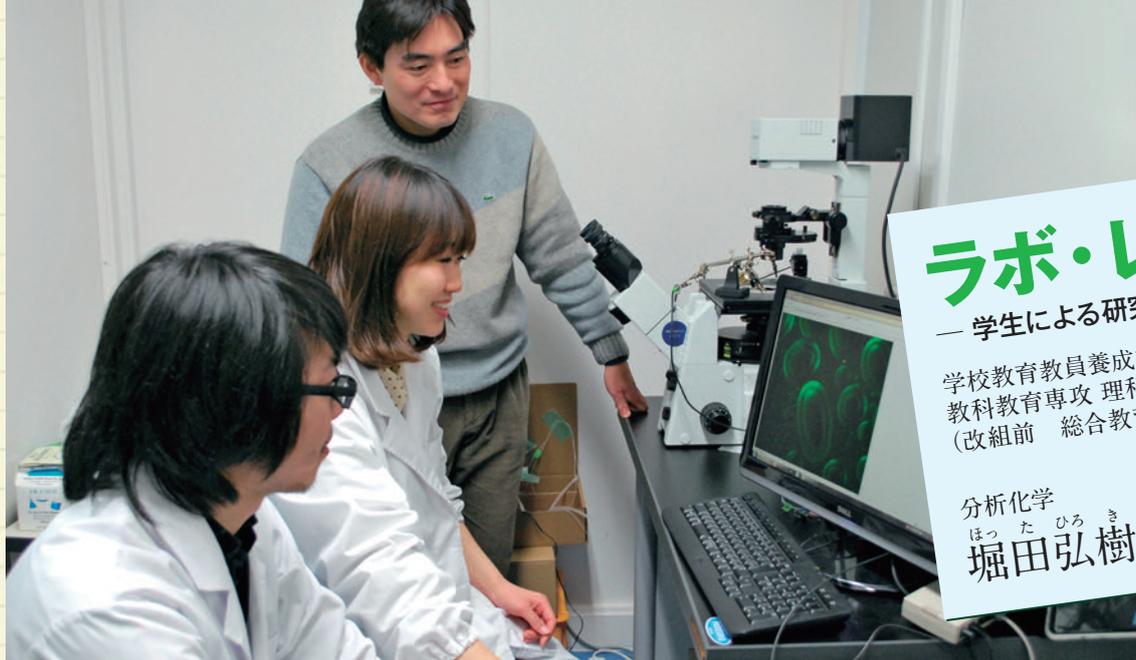
それぞれの専修ごとに、専修を構成する学問の基礎に触れます。教育は、人類が長い歴史の中で蓄積してきた学問の成果を次世代に伝えていくという役割を担っています。過去の学問の成果をきちんと学ばなければ、未来をひらく新しい成果を生み出すことはできません。本学の各専修を構成する学問の魅力に触れ、それぞれの専門的学びを深めていくための導入です。

## ◆大いに学び、豊かな力を

教員という職業は、次世代の担い手を育て、つまり、未来の担い手を育てるとても創造的で魅力的な仕事です。しかし、加速度的な社会の変化への対応に迫られたり、時にはいささか理不尽な要請にふりまわされたりと、大きな負担を伴っていることも確かです。専門職業人としての教員に求められるものはますます大きくなっています。そんな中で、大学で学ぶことのできるものは、時間的にも内容的にも限りがあります。だからこそ、今回の改組ではカリキュラムを見直し、4年間に学んでほしいこと、学んでおくべきことを整理しました。

奈良教育大学で大いに学び、豊かな力を身につけてください。創造的で魅力的な仕事を担う教員への育ちを、全学を挙げて応援します。



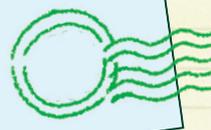


# ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 理科教育専修  
(改組前 総合教育課程 科学情報コース)

分析化学  
ほったひろき  
堀田弘樹研究室



教育学部総合教育課程  
科学情報コース 4回生  
でくちまゆみ  
出口 真由美さん  
私立四天王寺高等学校出身



**From**

## 堀田研究室の紹介

私たちが研究室に配属されたのは3回生の12月頃です。先生と相談を重ね、各自が興味・関心のある、かつ自分に合ったテーマを選択して研究できます。本研究室は分析化学が中心分野ですが、化学のみならず、物理学や生物学といった分野とも複合した多様な研究を行っており、他の研究室とは異なっています。“報告会”という名のゼミでは、研究室の全員が集まって研究の進捗状況等の報告を行っており、自分の研究分野以外にも知識を広げることができ、また客観的な意見を得られるため、より深く議論を行うこともできます。先生は研究に熱心で、私たち学生一人ひとりのことをよく考え、どんなときでも一緒に考えていただいています。十分に研究に取り組める環境を準備していたので、私たちはいつも楽しく充実した研究を行っています。

## 学びながら自立できる環境

堀田研究室では、幅広い分野を扱っています。研究テーマは多種多様で、研究は基本的に個人が独立して行うこととなります。そのため、問題等が生じた場合は自分の力で考え打開していかなければならず、その過程で自然と研究意欲が湧き、進んで学ぶことのできる環境となっています。また、学生のやりたいことを積極的にやらせてもらえる環境で、そのために必要なものは惜しまずに提供してもらえるので、自分のやりたい方向へどんどん研究を進められることもこの研究室の特徴です。

もちろん、研究の中で行き詰ってしまい解決策を見出せずにいるときには、先生は熱心にご指導くださいます。その指導は単に知識・知見を与えてくださるだけではありません。学生の意見を聞いた上で、自分の理解の浅さに気づかせていただいたり、こうしてみてもどうか、というアドバイスをくださったりします。そういった指導の中で自分で考える力を養うことができ、自分の成長を実感しました。

また、先生も周りの学生も、研究のことだけでなく進路の相談などにも乗ってくれたので、自分を支えてくれる大きな存在でした。そういったことが力となり、私たちは研究を進めて来れたんだ、と思っています。

## 分析化学とは

分析化学とは、試料中の化学種の特定やその存在量を解析する、あるいは解析のための目的物質の分離・検出の方法、装置について研究する化学の分野です。物理化学、有機化学、無機化学などを基礎に、物理学、生物学、材料科学、電子工学、機械工学などとも密接な関係があり、基礎化学の中では学際的な性質を持っています。得られた知見はバイオ・医療・食品・環境など、広い分野で利用されており、私たちの生活の中でも生かされています。

### 卒業論文のテーマ

- **光導波路蛍光顕微鏡の作製とそれをを用いたリン脂質膜への適用**  
光導波路を励起光源とした蛍光顕微鏡システムを自ら構築し、表面選択的、かつ表面吸着化学種に特に高感度な蛍光観察を可能とした。これを用いた、リン脂質膜に対しての脂溶性抗酸化剤の反応を観察するもの。
- **質量分析装置導入のためのオンライン脱塩セルの開発**  
質量分析装置にはまだまだ不足な点があり、従来の方では海水といった塩を多く含む試料の分析はできなかった。そこでそのような試料が分析できるように、新しい前処理法として脱塩セルの開発を目的としたもの。
- **光導波路を励起光源とした色素増感型太陽電池の作製検討**  
従来の太陽電池はパネルに直接光を照射するものであるが、光の多重全反射を利用した光導波路を適用した色素増感型太陽電池の作製を検討し、二ーズに合わせた太陽電池を提案するもの。

### Student's Voice

私は、すべての生物に存在する生体膜についての研究を行っています。生体膜を作り出し、化学物質が膜に対してどのような作用を引き起こすかを顕微鏡で観察しました。また、より使いやすいシステムの構築のため、装置の設計も行いました。生物内で起こる様々な反応を観察するための基礎を築く研究を行い、貴重な経験となりました。



教育学部総合教育課程  
科学情報コース 4回生  
しもざわ みさき  
下澤 美咲さん  
私立梅花高等学校出身



# クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

## 世界遺産を切り口としたESD（持続発展教育）

### ESDを学ぼう

「ESDという言葉聞いたことある方は挙手してください」と講演会で尋ねても、3年前までなら、シーンと北風がふいていました。でも、最近は5人に1人は手が挙がります。よかった。そういう私も、本格的にESDに取り組み始めたのは5年前、教育委員会で世界遺産学習を担当していた時です。

ESDというのは、Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育、持続発展教育）というもので、持続可能な社会の担い手を育てるための教育ですといっても、なかなかピンとこない方が多いので、「ESDとは『ええやん。それ、どう?』と訳します」と言ってみました、大阪以外では全く受けませんでした。

持続可能な開発とは将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」とされています。簡単に言うと、将来の人々が困るような環境破壊をすることなく、同時に現在の人々の豊かな暮らしを守ることでしょう。例えばエネルギー問題。原子力発電によって作られた電力による快適な生活を楽しむ一方で、核のゴミを数万年先の子孫にまで押しつけることは、世代間の公正という視点から見てどうでしょう。またアフリカや南アメリカのコーヒー農家の生活をつぶしながら、一杯のコーヒーを楽しむことは、世代内の公正という観点から公正な行いと言えるでしょうか。

この世代間の公正と世代内の公正が、ESDで養う持続可能な発展に関する価値観です。なんだか急に難しくなってきました

たね。私の恩師である田淵五十生先生（本学名誉教授）は、「難しいことを難しい言葉で語るのには二流の学者、難しいことを簡単に伝えるのが一流、そして簡単なことを難しく話すのが三流」とおっしゃっていました。気になります。

「いやいや、これくらいよくわかるよ。」と読んでくださっているあなたは優しい方です、が、それだけではだめなのです。ESDでは理解するだけでなく行動の変革を目標としています。つまり、行動化できるように教育を行うことが求められています。しかも、ESDは新しい学習指導要領に入っており、これから教員になろうとしている学生諸君、現在教職についておられる先生方には、ESDを指導できることが必須の条件となってくるはずですから、紹介しておきましょう。

持続発展・文化遺産教育研究センター

なかざわ しずお  
専任講師 中澤 静男

### プロフィール

専門は、ESD（持続可能な開発のための教育）、世界遺産教育。  
立命館大学文学部史学科卒、奈良教育大学大学院修士課程修了。  
公立小学校教員として23年間、社会科を実践的に研究。奈良市教育委員会指導主事を5年間。  
著書に『人生設計能力を育てる社会科授業』（共著：黎明書房）、『人生設計能力を育てる市民性教育』（共著：教育開発研究所）、『奈良大好き世界遺産学習』（共著：奈良市教育委員会）  
ESDの授業方法をヴィゴツキーから研究している。捕鯨についての関心も高い（もちろん捕鯨賛成派）。  
よく叫ぶ言葉：「授業はライブだ」「そんなESDじゃない」「ええやん。それ、どう? (ESD)」  
座右の銘：「ぼうふらや 蚊になるまでの 浮き沈み」林家三平（落語家）  
ユネスコクラブ顧問 剣道四段



- ①持続可能な発展に関する価値観
- ②システムズシンキング
- ③クリティカルシンキング
- ④情報を収集・分析する力
- ⑤コミュニケーション力
- ⑥リーダーシップの向上

さて、奈良教育大学は2007年に日本で最初にユネスコスクールへの加盟が承認された大学だということは御存じだと思います。しかもユネスコスクールにはESDの推進役としての役割があります。そこで本学では持続発展・文化遺産教育研究センターを設置し、ESDや世界遺産教育の実践的研究に取り組んでいます。

## 世界遺産教育はすばらしい

では、ESDは具体的にはどのように進めていけばよいのでしょうか。子どもにとって身近なものを切り口に進めていくのが正解です。子どもの学びはいつも具体から抽象へです。では、奈良の子どもにとって身近なものは何でしょうか。他にはないが、奈良にある特徴は何でしょうか。それは世界遺産が3件もあるということです。また、世界遺産でなくてもすばらしい社寺がたくさんあること、伝統的な行事が残っていること、つまり豊かな文化遺産に恵まれていることです。この文化遺産を切り口としたESDを世界遺産教育と言います。

世界遺産教育には2つの方向性があります。一つ目に世界遺産から地域遺産へ、二つ目が地域遺産から世界遺産へです。

一つ目の世界遺産から地域遺産へですが、例えば世界遺産である法隆寺を教材として取り上げます。法隆寺はおおよそ1300年前に建てられた世界最古の木造建造物です。その柱に注目すると、あちらこちらに修復の跡を見つけることができます。木造建造物は、そのままでは1300年間ももちません。各時代の人々による修復を重ねながら現在に至っているのです。法隆寺を学んでから、地域の社寺の建造物を見てみましょう。やはり



沖縄の世界遺産 識名園にて

修復の跡があるはず。この事実から文化遺産は大切に守られてきたものであり、次の世代にその価値を損なうことなく、伝えていくものということが学べるでしょう。また地域の文化遺産を学ぶことが地域の歴史や魅力を発見する契機となり、地域を大切にすることが育ちます。この地域を大切にすることが、持続可能な地域社会の創造にむけた行動化の基盤になります。さらに、西洋の石の文化に対して、日本は木の文化です。木の文化を伝えるためには、山に木を植えなければなりません。いくら立派な技術があっても、材木がなければ修復はできないのです。この事実から森林環境教育へと展開していくことも可能です。

二つ目の地域遺産から世界遺産へですが、例えば地域の棚田を教材として学びます。棚田をめぐる生物のつながり、棚田の保水力、棚田を中心にした人々の結びつき、伝統行事などなど、学べることはたくさんあります。一方、世界遺産にも棚田があります。フィリピンのコルディリエラ棚田群です。イフガオ族の人々は今も棚田を中心にした暮らしをしています。地域の棚田学習とフィリピンの棚田学習によって、地域に埋没することなく、グローバルな学習に発展することができます。

このように世界遺産教育はESDとし

て有効です。しかもよく考えると文化遺産や伝統行事は奈良だけでなく、日本中、いや世界中どこにでもあります。ですから、奈良教育大学で開発した世界遺産教育は、実は奈良だけでなく、どこでも実践可能なESDでもあるわけです。



松尾芭蕉と私(松島にて)

## 奈良教育大学での学び

私には奈良教育大学で自分の人生観、教育観が変革する経験が二度ありました。

一つ目は、大学院でのことです。私は公立小学校の教員として、特に社会科教育の研究に取り組んできました。社会科は問題解決学習でなければならない、とよく言われます。私は15年間にわたり毎年研究授業を行うなど、実践的な研究を重ねてきましたが、どうも子どもに力がついたように感じられず、本当に問題解決学習は有効な学習方法であるのか、と



という疑問を解決するために奈良教育大学大学院の門をたたきました。そして田淵先生に出会い、ヴィゴツキーの構成主義を学ぶことができました。ヴィゴツキーの学習理論は私にとって難解でした。しかし最近接発領域の理論や生活的概念と科学的概念の融合による学力形成など、目からウロコの学びの連続で、こんな大事なことを知らずに15年間も教師をやっている、これまで担任した子どもたち、すまぬすまぬという思いでいっぱいでした。この後悔の念を胸に本と格闘し、読み取れたことを授業で試すという理論と実践の往復運動の末、ヴィゴツキーの学習理論を用いた社会科の授業法を確立することができたのです。このヴィゴツキーの学習理論ですが、ESDで育みたい力の育成にも有効であると判断し、現在再びヴィゴツキー研究に取り組んでいます。

奈良教育大学は学生と教員の距離が近い、という特徴があります。大学院2年目の夏になっても、まだ解決の糸口さえ見つけることができなかつた私を見はなすことなく、最後まで一緒に研究してくださいと田淵先生との出会いは一生の宝物です。自ら学ぼうとする気持ちがあれば、いつでも相談ののってもらえます。奈良教育大学は本当の学びができる大学だと思っています。

二つ目は、大学の教員になってからのことです。ボランティアサポートオフィス相談員の小島さんが、十津川村での「道普請」ボランティアのチラシを手に国際交流オフィスにいられました。奈良県南部には「紀伊山地の霊場と参詣道」という世界遺産があり、吉野・高野山・熊野の3つの霊場とそれを結ぶ「古道」が世界遺産に登録されています。この「古道」が台風12号で被災しており、その修復ボランティアを募集していたのです。私の心は揺れました。①これは世界遺産の修復に関わることができるめったにないチャンスだ。まさにESD体験ボランティアだ。参加しよう。②なんでお金を払ってまでボランティアしなあかんのやろう。それに十津川は遠すぎる。

私はそれまでボランティアをしたことがありませんでした。心の中では①と②が葛藤を繰り返していましたが、小島さんの笑顔に負けて参加することになりました。7人の学生と3人の教職員による奈良教育大学チームです。玉置神社近くの「大峯奥駆道」は台風の影響で、大量の杉の葉や枝、岩などに覆われ、どこが道なのか見分けがつかない状態でした。そこを奈良教育大学チームが、わっせわっせとトンガを振り、ジョレンでならし、竹箒で掃いていくと、古道が現れてくるのです。昔の人たちもきつこうして「道普請」していたに違いないと思うと、歴史に参加できたという思い、次の世代に価値を損なうことなく伝える活動をしているという充実感でいっぱいになります。しっかり働いた後は、みんなで温泉につかり、鍋を囲みました。なぜかはわかりませんが、誰もが笑顔です。楽しい。来てよかった。また参加したい。笑い声が冬の夜空を明るくしていました。人生にとって大切なことが少し見えてきたような気がしました。



十津川道普請 ESD体験ボランティア

ESD体験ボランティアはすばらしいです。言葉にはできない、やった人だけにわかる価値があります。ボランティアを体験した人が教員になれば、きっとその素晴らしさを子どもたちに伝えることでしょう。そして成長した子どもたちは、ボランティアをする人になるはずで、この静かだけれど確かな動きが、日本や世界を変えていくのだと期待しています。

教員を目指す人には、一人でも多くボランティアを体験してほしいと思います。

## これからのこと

昨年の7月にユネスコクラブができ、私が顧問をしています。ユネスコクラブはESDの行動化の側面を楽しく追究するクラブです。今、15名ほどの部員が、しょっちゅう研究室に来てくれます。私は授業ができること、学生諸君と笑いあえることを、本当にありがたいことだと実感しています。これからの教育を担うみなさんに、ESDももちろんですが、学級経営の楽しさ、授業のコツ、保護者対応のことなど、経験を通して学んだことを伝えたり、現職教員とのつながりを作ったりしていければと思います。



ユネスコクラブ 飛鳥寺での集合写真



# 奈教の

# ひみつ

学生広報スタッフ  
“なっきょん's CLUB”  
企画

DVDなんかも  
これからは自由に  
視聴できるんですね。



## ～学術情報教育研究センター図書館～

奈良教育大学キャンパスのちょうど真ん中、展望窓と波打つ屋根がユニークな外観、それが学術情報教育研究センター図書館です。大学のどこにいても近くて便利！平成24年1月16日、待ちに待った大学図書館のリニューアルオープン！

どんなところが変わったのか“なっきょん”も一緒に探索しようね！



今回の改修にあたっては、皆さんからの要望を多く反映したんです。ここもその一つで明るく快適になったグループ学習室です。壁は可動式で広げられることもできるんですよ。その向こうのAV室には、視聴覚機器を備えています。

1



ナビゲーター：学校教育教員養成課程 教育・発達基礎コース 2回生  
(左から) 樋渡友理さん (大阪府立生野高等学校出身)、  
右井優希さん (静岡県立伊豆中央高等学校出身)

3



なっきょん！  
今日はよろしくね！

9



### ようこそ図書館へ！

今回は私たちが、安全で快適な学習環境の整備を目的に新しく生まれ変わった図書館をご紹介します。

2



学術情報課 情報サービス担当  
ほしかわひろこ いまにしひろみ  
(左から) 星川泰子さん、今西裕美さん

うれしい！これからは長時間いても大丈夫ですね。



10



ここは新しくできた休憩室で、携帯電話での通話やペットボトル飲料を飲むことができます。

そうですね。でも床面積は同じ。これまで、倉庫だったところを開架、閲覧スペースにしたり、背の高い書架にしたりしたことで自由な空間が生まれたんです。書架には耐震・免震機能がついているので、いざという時は、図書の下下を防ぎます。約700段(全長6300)の書架が増えました。



5



たくさんありますね!

6



4

♡ 自慢 POINT ♡

個別管理になった空調設備と断熱ガラス窓で省エネ!



♡ 自慢 POINT ♡

エレベーターや多目的トイレが設置されて車椅子を利用の方も安心!



7

ふふ♪ よみたかった本、見つけちゃった!



8



閲覧中...

12

これから図書館は皆さんにとっての新たなコミュニケーションの場になりたいと願っています。

皆さんの声をどんどん聞かせてくださいね。揃えて欲しい本にもお応えしていきます!

スタッフの皆さんも優しくて親切な方ばかり!

皆さんいかがでしたか? これからは図書館に行くのが楽しみです!

なんだか広くなった気がしない?

それに、明るくなった?

フムフム。なるほど...

11





## 「大学時代に多くのことを経験してほしい」

私は、2011年4月より奈良県吉野郡の最南端、和歌山県や三重県にほど近い下北山村にある下北山中学校で英語教諭として勤務しています。大自然に囲まれた小さな学校で、全校生徒は32名。大阪で生まれ育った私には想像できない環境です。英語の先生も、村で一人しかいません。ただ、生徒や先生の人数が少ない分、一人ひとりとの関わりがたくさんもてます。そんな下北山中学校の子どもたちはとても元気で個性的な子が多く、意見を問いかけるとさまざまなアイデアを出してくれます。特に文化祭が印象的で、たった32名で、歌ったり踊ったりと学校を一日中盛り上げてくれました。また、この村の子どもたちは、中学校を卒業すると高校進学のために親元を離れて寮生活を始めるということには驚きました。初めて下北山村に来た日に、「一人でしっかりと生活できる強い子を育ててほしい」と言われたことが印象に残っています。ただその分、たまに学校を訪ねて来てくれる卒業生は、本当にたくましく見えます。

奈良教育大学での一番の思い出は、何といっても寮生活です。私が入学した当時は、くじ引きで決めた相手と二人一部屋で生活していました。初めの頃は共同生活に慣れるのに大変苦労しましたが、他人との共同生活を通して「他者とつながるとはどういうことか」を学び、また二つの財産・宝物を得ました。一つ目は新たな地に赴く勇気です。それは橘寮で見知らぬ者同士での集団生活をしてきたという自信と新たな人につながる楽しさを知ったことから得られたと思います。もう一つは寮で知り合った友達です。彼女らは家族のような存在で、仕事で辛いことがあっても遠くから励ましてくれるなど、今でも大きく私を支えてくれています。

在學生や受験生の皆さんに私が伝えたいことは「大学時代に多くのことを経験してほしい」ということです。高校までの生活とは違って大学時代は色々なことに挑戦できます。寮生活以外にも、私はアルバイト、留学、部活動、ボランティア、旅行と大学時代に自分のやりたいことはほとんどやってきました。そういった経験は社会人になってからもきつと役立ちます。大学時代に色々なことに挑戦し、人との関わりや学びを深め、自分を高めていってください。

下北山村立下北山中学校勤務

きむら ゆうき  
木村 祐葵 さん

(言語・社会コース 英語・  
国際理解教育専修 2011年3月卒業)



今でも私を支えてくれる、橘寮の仲間たちと



留学にも挑戦



英語教諭として、教壇に立つ木村さん

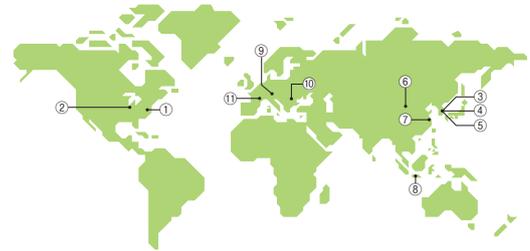


# 留学生 レポート

本学の国際交流協定校の一つであるセントラルミシガン大学(1996年7月交流協定締結)は、アメリカミシガン州中央部にある中規模大学です。国際交流が積極的に行われており、本学との交流も15年以上にわたります。近隣の川などで水上スポーツが楽しめたり、運動施設が整っていたりと快適な環境が用意されています。今回は同大学に留学中の窪田裕介さんに話を聞きました。



セントラルミシガン大学(アメリカ)



- ① ロック・ヘイブン大学
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑩ プカレスト大学
- ② セントラルミシガン大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑪ リヨン第三大学
- ③ 嶺南大学校
- ⑧ インドネシア教育大学
- ④ 公州大学校
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑤ 光州教育大学校



シカゴ旅行へ出発

Interviewee

学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 4回生  
私立奈良智辯学園高等学校

くぼた ゆうすけ  
窪田 裕介 さん

アメリカ/セントラルミシガン大学 (留学期間 2011.8~2012.5)

## ✦ 留学をしようと思ったきっかけは。

入学当初から、本学に留学制度があるのを知っており、興味を持っていました。その後、年に数回学内で行われる留学説明会(学生支援課主催)に参加し、その時の帰国報告会で先輩方の留学体験を聞き、本格的に留学をしようと思った決意しました。

## ✦ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

留学の選考基準となる TOEFL の勉強をしました。学校の図書館で毎日4時間以上学習しました。実際に留学するまで、10カ月以上継続して学習しました。

## ✦ 留学先ではどのような1日を過ごしていますか。

平日は、朝から夕方まで講義に出て、夕方からは寮に戻り、講義で与えられた課題をこなしています。課題が尋常じゃないほど出されるので、課題が終わった頃には曜日が変わっていることも多々あります。休日は、他の学生と団欒やスポーツをして楽しんでいます。

## ✦ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

アメリカでの学生生活が比較的過ごしやすいことですね。大学の施設やサービスが充実しており、学校や寮から出ないのであれば、快適に生活できます。

## ✦ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

寮の近くにスポーツ施設が完備されていることがとてもうれしかったです。勉強に疲れた時に利用したり、日頃のストレスや運動不足を解消したりしています。その一方で大変なのが、健康管理です。食堂では油っぽい食事がよく出されます。

## ✦ 留学体験をどのようにいかしていきたいと思いませんか。

将来、教員になったときに、今の経験を生かした授業づくりをしていきたいです。

## ✦ 在学生、高校生の皆さんに一言。

在学生の皆さんの中で、もし今留学するかどうか迷っている方がいるのならば、是非留学に挑戦してほしいです。まずは、留学を知ってほしいので、留学説明会に来ていただきたいです。

本学への入学を希望し、留学に興味をお持ちの高校生の方は、授業の基本的な英語学習を怠らないでください。基本的な英語の表現や語彙が、留学生活で役立ちます。日々の英語学習をコツコツ取り組んでほしいです。



シカゴのレストランでネイティブの学生とともに



キャンパスで輝く学生を紹介

# キラリ 奈教生



TNPメンバーたち

上段：山岡知樹さん、林美輝特任准教授(担当)、木下雄登さん、上野敦史さん、小島安浩さん、永井久司さん  
下段：田中美帆さん、杉山友理さん、阿部円香さん、久保瑠江子さん、西村まみさん、古川真里奈さん

## Profile\*

プロフィール

教育学部学校教育教員養成課程  
教育・発達基礎コース 1回生

たなか みほ  
田中美帆さん 岡山県立岡山城東高等学校出身



東市まるごと子ども合宿に参加した子ども・学生スタッフ・地域スタッフたち



子ども・学生・地域の方が一緒になってポートボール

## 東市小学校を日本一の小学校に！ ～学校・地域・大学が連携し、東市をまるごと盛りたてる～

本学からほど近い奈良市立東市小学校では、毎週水曜日の放課後、子ども達と一緒に勉強したり遊んだりする奈良教育大生の姿が見られます。東市小学校とその校区の地域の方々、奈良教育大生とが世代を超えて協力し、東市小学校を日本一の小学校にしようと取り組む異世代連携型学校教育支援プロジェクト、「東市・日本一・プロジェクト」(通称 TNP) のメンバーです。今回は、メンバーの一人、田中美帆さんに話を聞きました。

### 校長先生の熱い思いに応えたい

日本教育大学協会の助成を受けた研究の一環としてスタートした TNP。当初は大学教員主導で異世代連携研修が行われていましたが、現在は、昨年5月の地域住民と学生を対象としたワークショップの際に語られた、東市小学校長の「東市小学校を日本一の小学校にする」という熱い思いに賛同した学生と校区の方々に参加し、さまざまな活動をしています。このように活動を通じて交流していくなかで、高い志を持つ集団へと発展してきました。

### 学生が学校・地域の方と対等の立場で参画

TNP はこれまでに「東市まるごと子ども合宿」(通学合宿)・夏季休業中の「夏の宿題相談室」・放課後子ども教室「まなびーや」の各企画運営、プール開放での支援、「東市まるごと子どもフェスタ」でのオリジナルアトラクションの企画など幅広く活動しています。

その中でも、昨年10月から継続的に取り組んでいるのが、放課後子ども教室「まなびーや」です。毎週水曜日の放課後、「わかる!できる!楽しむ!」というコンセプトのもと、学習と遊びの2本立てで活動しています。学習では、主に宿題を教材として認知心理学に基づく学習カウンセリングの要素を取り入れ、何がわからないのか(問題文の意味がわからないなど)を、個

人的な面接を通して探り、「わからない」を「わかる」に変えるための援助を行っています。また遊びでは、遊びを通して、子どもたちの体力づくりや体育への苦手意識の解消を目指し、毎回担当の学生2名が工夫を凝らした企画を実施しています。

「大学生による学校教育支援といえば、大学生は補助的な役割を担うことが多いのですが、TNP は、私たち大学生も学校や地域の方々と一緒に事前の研修や企画会議から参加し、オリジナルな企画や意見をどんどん提唱できるところに大きな特徴があります。」と誇らしげに話してくれた田中さん。学生が出した企画や意見を、学校や地域の方々からの力強い支援を受けて、実現していけるところに大きなやりがいを感じていると言います。また、活動を通してさまざまな世代の大人と関わったことで、学生のコミュニケーション能力の向上につながり、視野の広がりや考えの深まりも感じられます。そして教職という同じ夢を持つ学生同士で、日常的に TNP の活動について意見を交わし、時にぶつかり合うことでお互いを高めることができます。

### 地域の方々と共に持続可能な活動を目指す

田中さんは、これからの目標として、このプロジェクトを、誰もが無理することなく活動でき、それをまた後輩に受け継いでいけるような「持続可能な活動」にしていくこと、また TNP の活動をより多くの人々、特に東市小学校区の地域の方々にも知ってもらい、まなびーやの遊びのプログラムづくりに、さまざまな経験を持つ地域の方々にもっともっと参加していただき、TNP の活動を共に作り上げていくことを挙げてくれました。

「東市小学校を日本一の小学校にする」という目標に向かって志を大きく持ち、日々の小さなことから一つひとつ積み上げていくことを忘れずに、これからも試行錯誤の活動が続きます。

TNP の活動については、随時ブログにアップしています。ぜひご覧ください。  
<http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/TNP.html>



# ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属27団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、男女ソフトテニス部です。

## 文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)すぎのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房KATE
- 地歌箏曲部

## 体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部**
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

pick up

## 体育会 男女ソフトテニス部 部員数18名(男子8名・女子10名)

私たち男女ソフトテニス部は、月、水、木、土の週4日、男子8人(新4回生2人・3回生2人・2回生4人)、女子10人(新4回生2人・3回生6人・2回生2人)の計18人で活動しています。男子は2011年秋のリーグ戦、6部Aで優勝し、昇格を果たしました。女子も毎年夏に行われる全国教育大学ソフトテニス大会で、団体が3位に入賞しました。

## ソフトテニスを楽しむこと!



教育学部 科学情報コース  
物質科学専修 2回生  
京都府立桃山高等学校出身  
男子部主将  
前田 拓哉 さん

私たちソフトテニス部は部員一同仲良く、切磋琢磨し合いながら日々活動しています。そんな私たちのモットーは、「テニスを楽しむこと・楽しくテニスをする事」です!「楽しくテニスをする→テニスが上手くなる→もっとテニスが楽しくなる」、という循環をみんなで大切にしています。かといって、ドラドラと練習をするのではなく、メリハリを大事にして全員で盛り上げながら練習をしています。

部活で大切なものは、「仲間」だと思います。苦しい時も困った時も、仲間がいるからこそ乗り越えられるものはたくさんあります。いつでも頼りになり、力になってくれる先輩、自分たちの背中を見ながら成長していく後輩、支え合いながらいろいろなことを一緒に乗り越えていく同回生。そんな仲間同士で活動することに感謝するとともに、皆で一緒に練習することの意味をかみしめています。もちろん男女の仲も良く、本練習のあとの自主練習では、男女関係なく教え合っている姿が見られます。

私たちチームは、男女とも去年の10



月に幹部が交代し、新体制になりました。4月には1回生が入部し、一層フレッシュなチームになります。今後は、年に2回あるリーグ戦を大きな軸として、夏のシーズンに向けて部員一同で意識を高めつつ、練習に取り組みます。4月のリーグ戦では、男女ともに昇格を目指し、1試合でも多く勝てるように頑張ります。もちろん試合の勝ち負けだけでなく、各自が納得のいく試合をすることも目標に置いています。

## 活躍する奈教生

### 文化系

- 古川智佳子さん(大学院2回生)  
+ 第85回国展彫刻部[入選]
- 福田友樹さん(大学院1回生)  
+ 第62回奈良県美術展覧会 [知事賞(彫刻の部)]
- 西部裕香子さん(教育学部4回生)  
+ 第35回ピティナ・ピアノコンペティション西日本グランミュージック地区本選[Yaカテゴリー地区本選第1位]  
+ 第35回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会[全国決勝大会Yaカテゴリー第2位]

### 速報

3月8日、学生表彰式を開催しました。



学長表彰の受賞者たち

### 体育系

- 白谷和太さん(教育学部1回生)  
+ 第54回全国教育大学ソフトテニス大会男子の部「新人賞」
- 山崎正人さん(教育学部4回生)  
中瀬勇作さん(教育学部4回生)  
+ 第36回近畿国立教育系大学バドミントン選手権大会男子ダブルス[優勝]
- 佐々木蓮香さん(教育学部2回生)  
+ 第52回全国国立教育系大学バドミントン選手権大会女子ジュニアシングルス[優勝]
- 弓道部  
+ 第27回全国教育系大学弓道選手権大会男子団体[準優勝]  
+ 第27回全国教育系大学弓道選手権大会女子団体[準優勝]  
+ 平成23年度関西学生弓道リーグ戦男子4部リーグ[優勝]  
+ 平成23年度関西学生弓道リーグ戦女子5部リーグ[優勝]  
+ 第24回奈良県大学弓道選手権大会 男子の部[優勝] 奈良教育大学Bチーム(中山康平・森慎太郎・森田裕)  
+ 第9回近畿四校教育大学選手権大会[優勝] 奈良教育大学Aチーム(杉浦弘隆・中野真由・森田裕)
- 男子サッカー部  
+ 平成23年度関西学生サッカーリーグ3部Bブロック[準優勝]
- 準硬式野球部  
+ 平成23年度西都六大学準硬式野球新人戦[優勝]



## 東日本大震災関連

9月2日



### 教育復興支援ボランティア 報告会開催

東日本大震災被災地での教育復興支援活動のために、宮城県に派遣（7月30日～8月6日）

された第1次隊の学生による活動報告会を開催しました。

第1次隊でリーダーを務めた木下智彰さん（教職大学院1回生）による現地での活動の様子についての全体説明の後、参加各メンバーより心に残った点や注意すべき点等について報告がありました。「現地ではチームとして行動するため、ミーティングの大切さを実感した」「他者の立場に立って考えた上で行動するべき」などの意見が出されました。

12月21日



### 震災派遣経験者による シンポジウム開催

学生及び教職員を対象に、東日本大震災における現地での活動経験者によるシンポジウム「災害時に何ができるのか？－東日本大震災・震災派遣を経験して－」（学生委員会主催）を開催しました。

現地での活動に関わった学生や教員らによる報告などがあり、学生からは、「震災やそのときの気持ちを忘れないで欲しい」「一時的な支援ではなく、継続的な支援が求められている」など現地での活動を通じて感じたことが報告され、何が求められているのかを考えるよい機会となりました。

10月26日



学生を激励する長友学長

### 教採導入ガイダンス開催

次年度に教員採用試験の受験を予定している学生を対象にガイダンスを開催、採用試験の内容や勉強方法、就職相談や対策講座の利用などについて説明が行われました。

長友学長からの「地道に勉強するのが一番。しっかりと計画を立てて頑張ってもらいたい。」とアドバイスと激励の言葉や、今年度の採用試験に合格した先輩からのアドバイスに、参加者は熱心に聞き入っていました。

11月4日～6日



毎年恒例の仮装行列

### 第62回輝薨祭開催

「祭大級のイッサイガッサイ輝薨祭」をテーマに、奈教大生と来場者全員で、目一杯楽しみ、盛り上がる大学祭を目指して、企画・運営されました。

実行委員会主導の下、恒例の仮装行列や子どもフェスティバル、国際三輪車レースなどに加え、おぼけやしきや迷路など子どもたちが参加できるさまざまなイベントが行われ、多くの方々楽しんでいただくことができました。

12月7日



消防署員が注視するなか、グラウンドに避難する学生ら

### 防災訓練を実施

学生及び教職員を対象に、情報収集・伝達訓練及び避難・誘導訓練を実施。東日本大震災を教訓に、大規模地震により停電や火災、建物が一部崩壊したとの想定のもとで実施されました。

避難・誘導訓練では、実際に授業中での地震発生を想定して、講義室等から災害時避難場所であるグラウンドに安全に避難・誘導できるかなどを検証、この訓練には約700人の学生、教職員が参加しました。本学ではこの規模での実施は初めての試みでした。

12月10日、11日



大盛況の本学ブース

### 奈良マラソン2011EXPOに出展

奈良マラソンの関連イベントとして開催された奈良マラソン2011EXPOにブースを出展しました。訪れたランナーやその家族ら

に楽しんでもらおうと、「古代技術を体験しよう！」と題して、勾玉やばちる（撥鏝）技法でしおりを作るコーナーを開設。文化財の宝庫である「古都奈良」での開催にふさわしいイベントを展開し、2日間で約250組以上もの家族らが体験しました。

1月16日



リニューアル開館式テープカットの様子

### 図書館でリニューアル開館式挙行

学術情報教育研究センター図書館では、安全で快適な学習環境の整備を図るため、平成22年度補正予算の補助金をもとに、昨春から耐震補強並びに機能改修

を目的とした第1期改修工事を進め、仮設先からの復帰作業等を終えて、リニューアル開館式を挙行了しました。（詳細は本誌「奈教のひみつ」(15～16ページ)参照）



## 附属学校園関連

12月9日



たき火に興味津々の園児たち

### 附属幼稚園で焼き芋大会

学生が附属幼稚園で焼き芋を作り、園児やその保護者に振る舞いました。

「幼児と環境Ⅱ」(岩本廣美教授)

の授業の一環として実施されたもので、附属実習園で栽培されたサツマイモの収穫から落ち葉集めまで、主に受講生 23 名が 5 グループに分かれ、準備を進めました。

前週までの授業で、焼き芋に関する絵本を学生が園児たちに読み聞かせ、また一人ひとりに手作りの招待状を渡しており、園児たちはこの日を心待ちにしていた様子。学生から焼き芋を受け取ると、早速うれしそうに口いっぱいほおぼっていました。



ブース前で記念撮影する生徒たち

### 附属中学校科学部がWRO2011世界大会で世界第6位に入賞

アラブ首長国連邦・アブダビで行われた自律型ロボットコンテスト「WRO2011 世界大会」に附属中学校科学部が出場し、オープンカテゴリーとしては日本最高位である世界第6位を受賞しました。

部員達が製作した、ロボットと人が相互に

コミュニケーションを取り合うことができるロボットを制作し、多くの方々から称賛していただきました。また、部員にとって家族のような存在であるロボット「さくら」とともに、日本の家をイメージしたブースは、多くの来場者の興味をひいていました。

11月24日～25日



漁港で競りを見学する児童たち

### 漁業学習で和歌山県勝浦を訪問

附属小学校5年生が、漁業の学習でまぐろの町・和歌山県勝浦を訪れました。沿岸漁業、遠洋漁業そして、ケンケン漁やはえ縄漁など、漁業について現地の漁師さんから直接話を聞いたり、早朝には漁港でたくさんのマグロが競りにかかる様子も見たり、海の生きものを見る磯採集も行いました。台風12号の爪あとが残る状況でしたが、その被害についても現地の方から話を聞くことができました。

自然を大切にすることということを学ぶことができ、また海のなかい県に住む子どもたちにとって、驚きと感動の旅となりました。

11月19日～20日

## 奈良に息づく仲間たち



自然環境教育センター長  
教授 鳥居 春己



### は 爬虫類三種

本学構内には足のある爬虫類のヤモリ、トカゲ、カナヘビの三種が棲息している。ヘビやトカゲは人には嫌われる存在だが、子どもには人気がある。特に、トカゲはレアものとしての人気もある。

ヤモリの語源は「家守」で、人家に入り込み、本学の廊下でも姿を見ることができる。ヤモリの足裏には微細な毛が密に生え、その先端がマジックテープのようになっていて、物の凹凸に分子レベルで吸い付き、自由に動き回ることができるという。



▲トカゲ



▲カナヘビ



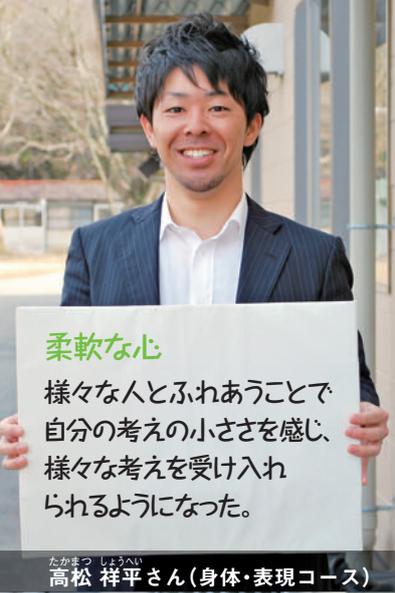
ヤモリ▶

トカゲは成長すると茶褐色だが、幼体は黒い筋と綺麗な青い尾が特徴である。トカゲの鱗は密で、ざらざらした鱗のカナヘビとは区別できる。トカゲの雄は繁殖期には喉や腹が赤みを帯びる。

カナヘビは日本固有種で、尾が長いのが特徴で、人目に付きやすい。鱗のいかつさはワニを連想させる。

トカゲとカナヘビは尾を切って捕食者から逃げ、その後、尾は再生してくる。

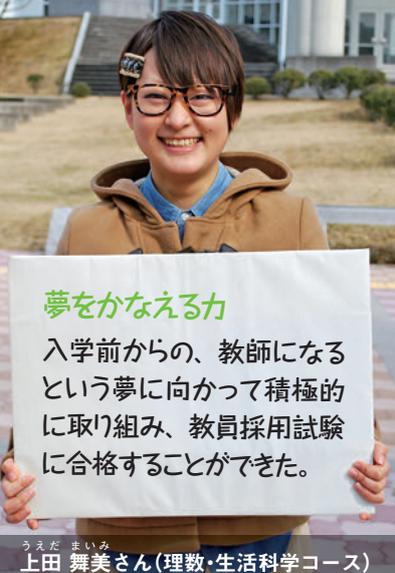




### 柔軟な心

様々な人とふれあうことで自分の考えの小ささを感じ、様々な考えを受け入れられるようになった。

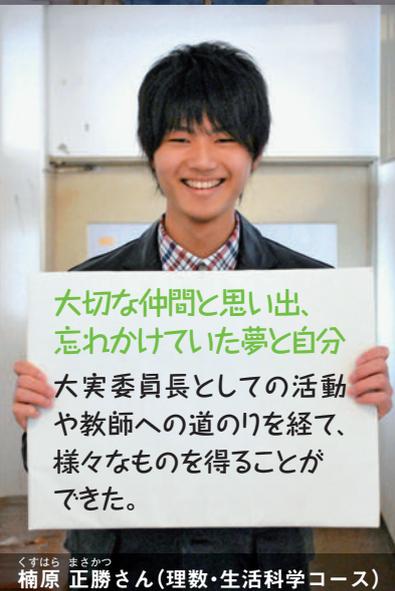
たかまつ しろへい 高松 祥平さん(身体・表現コース)



### 夢をかなえる力

入学前からの、教師になるという夢に向かって積極的に取り組み、教員採用試験に合格することができた。

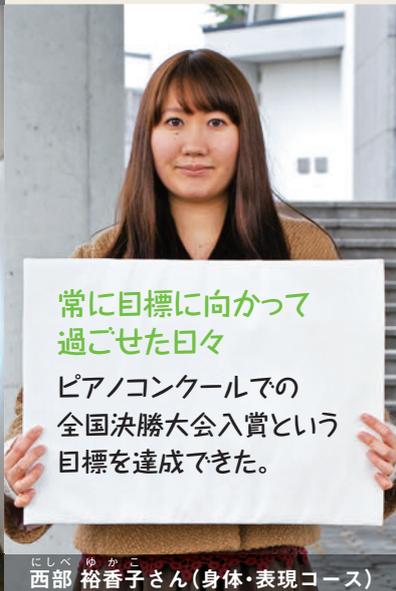
うえだ まいみ 上田 舞美さん(理数・生活科学コース)



### 大切な仲間と思い出、 忘れかけていた夢と自分

大実委員長としての活動や教師への道のりを経て、様々なものを得ることができた。

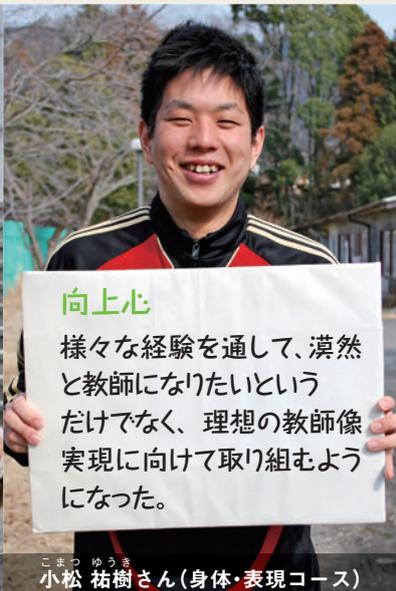
くぼ まさひろ 楠原 正勝さん(理数・生活科学コース)



### 常に目標に向かって 過ごせた日々

ピアノコンクールでの全国決勝大会入賞という目標を達成できた。

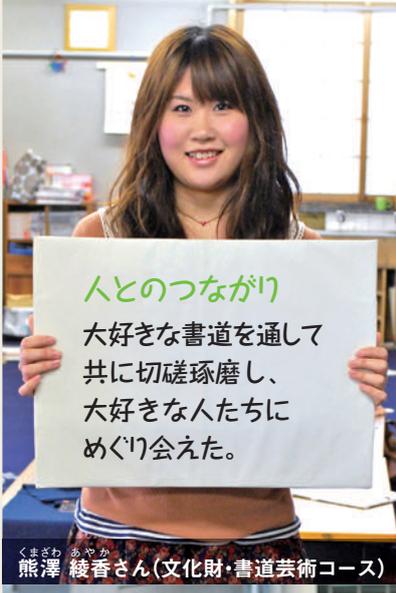
にしへ ゆかこ 西部 裕香子さん(身体・表現コース)



### 向上心

様々な経験を通して、漠然と教師になりたいというだけでなく、理想の教師像実現に向けて取り組むようになった。

こまつ ゆうき 小松 祐樹さん(身体・表現コース)



### 人とのつながり

大好きな書道を通して共に切磋琢磨し、大好きな人たちにめぐり会えた。

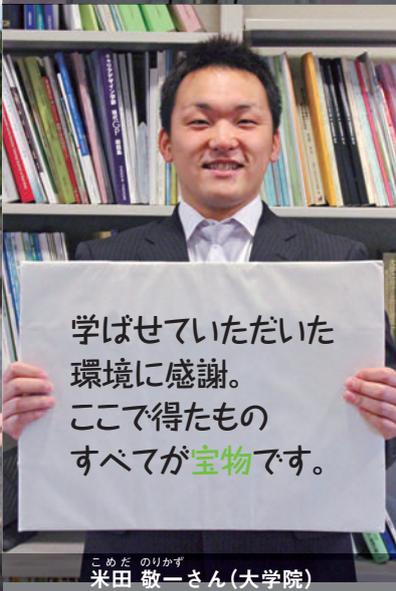
くまざわ りか 熊澤 綾香さん(文化財・書道芸術コース)



### 広い視野・物の見方

様々な取り組みなどに参加し、同じ目標を持ちつつも境遇や考え方が異なる様々な人に出会えた。

とくもと あつみ 徳本 敦美さん(理数・生活科学コース)



学ばせていただいた環境に感謝。ここで得たものすべてが**宝物**です。

こめだ りかす 米田 敬一さん(大学院)

# 奈教生に 聞きました!

vol.5

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。

今回は、卒業・修了される皆さんに在学中を振り返っていただき、「奈教で得た宝物」について聞きました。



弊社に関するご意見・ご感想を貼付のアンケートハガキでお寄せください。また、QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答いただくこともできます。皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なっきょん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる学生広報スタッフを募集しています。興味のある方は企画・広報室まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



国立大学法人  
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌「ならやま」

第39号 平成24年3月19日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email:kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

http://www.nara-edu.ac.jp/